

「企業理念」「安全憲章」

JR西日本の経営の基本は、福知山線列車事故を機に全社員で作り上げた「企業理念」と「安全憲章」にあります。「企業理念」「安全憲章」のもと、全社員が心をつにし、安全を最優先する企業風土を構築するための努力を積み重ね、お客様や株主をはじめとするあらゆる関係者の方々のご期待に応え、将来にわたる持続的発展を図ってまいります。

JR西日本 企業理念

1. 私たちは、お客様のかけがえのない尊い命をお預かりしている責任を自覚し、安全第一を積み重ね、お客様から安心、信頼していただける鉄道を築き上げます。
2. 私たちは、鉄道事業を核に、お客様の暮らしをサポートし、将来にわたり持続的な発展を図ることにより、お客様、株主、社員とその家族の期待に応えます。
3. 私たちは、お客様との出会いを大切に、お客様の視点で考え、お客様に満足いただける快適なサービスを提供します。
4. 私たちは、グループ会社とともに、日々の研鑽により技術・技能を高め、常に品質の向上を図ります。
5. 私たちは、相互に理解を深めるとともに、一人ひとりを尊重し、働きがいと誇りの持てる企業づくりを進めます。
6. 私たちは、法令の精神に則り、誠実かつ公正に行動するとともに、企業倫理の向上に努めることにより、地域、社会から信頼される企業となることを目指します。

「企業理念」は、JR西日本が目指す方向性、大切にしたい共通の価値観を示したものであり、福知山線列車事故を真摯に受け止め、新たなJR西日本を築き上げようとする、社員全員の決意をあらわすとともに、世の中の皆様に対する宣言でもあります。

「企業理念」の名称、そして各項目の冒頭にある「私たち」という言葉には、社員と役員が一体となって作り上げたものであり、社員、役員、その総体である会社のすべてが取り組みの主役であるとの思いを込めています。

新たな「企業理念」制定までの取り組み



会社発足直後に全社員が参加し制定した「経営理念」のもと、これまで様々な取り組みを進めてきました。しかしながら、平成17年4月25日の福知山線列車事故を機に、安全を最優先する企業風土を構築するため、これを見直すこととし、会社発足20年目を迎えるなか、あらためて全社員で議論を重ねるとともに、社外有識者の方々の意見も伺い、平成18年3月、新たな「企業理念」を制定しました。

あわせて「安全憲章」についても、事故を決して忘れることなく、最大の使命である安全の確保に向けて社員一人ひとりが具体的な行動を起こせるよう、見直しを行いました。

安全憲章

私たちは、2005年4月25日に発生させた列車事故を決して忘れず、お客様のかけがえない尊い命をお預かりしている責任を自覚し、安全の確保こそ最大の使命であるとの決意のもと、安全憲章を定めます。

1. 安全の確保は、規程の理解と遵守、執務の厳正および技術・技能の向上にはじまり、不断の努力によって築きあげられる。
2. 安全の確保に最も大切な行動は、基本動作の実行、確認の励行および連絡の徹底である。
3. 安全の確保のためには、組織や職責をこえて一致協力しなければならない。
4. 判断に迷ったときは、最も安全と認められる行動をとらなければならない。
5. 事故が発生した場合には、併発事故の阻止とお客様の救護がすべてに優先する。

「安全憲章」は、「企業理念」第一項に掲げた安全に関する具体的行動指針であり、社員一人ひとりが安全の担い手であることを自覚し、日常の場において、安全を最優先するという価値観に基づく行動が自然に出るよう定めたものです。

前文では、福知山線列車事故を深く胸に刻み込むことを明確に表現し、このような事故を起こさないとの決意を盛り込んでいます。

「企業理念」「安全憲章」は、日々の企業活動や一人ひとりの取り組みの中で具現化・実践していくものです。そのため、各職場にポスターを掲示するとともに、一人ひとりがカードを携帯し、「企業理念」「安全憲章」に照らして自らの行動を振り返るきっかけとしています。



携帯用カード



職場掲出ポスター

行動指針である「安全憲章」については、日常の場で自然に行動に出ることが大切であると考え、各職場で日々繰り返し唱和し、実際の行動に結びつけています。



大阪新幹線車掌所 朝の点呼での唱和